

わい性で、耐暑性に優れた食味良好なパパイヤ新品種「石垣珊瑚」

〔要約〕

パパイヤの新品種「石垣珊瑚」は、「ワンダーブライト」の自然交雑実生から選抜した単為結果性のある雌性系統である。耐暑性を備え、わい性で豊産性の栽培特性を持ち、果実は強い芳香があり、高糖度で食味がよい。

所属	国際農林水産業研究センター・熱帯・島嶼研究拠点	連絡先	0980 (83) 6110		
専門	果樹、育種	対象	他の果樹類	分類	国際

〔背景・ねらい〕

パパイヤは、世界の熱帯・亜熱帯地域で広く生産されている。生食用パパイヤは、「サンライズ」が世界市場および国内市場で高い評価を受けている。しかし樹高が高くなり耐暑性にも欠けるため、台風の常襲地域や高温地帯では安定した生産が困難である。そこで、わい性および耐暑性を備え、「サンライズ」と同等かそれ以上の果実品質特性を持つ、パパイヤの新品種育成を図る。

〔成果の概要・特徴〕

- 1997年に「ワンダーブライト」の自然交雑種子を播種し、2000年にわい性と果実品質で一次選抜した。2001年から品種登録に向け、80リットル鉢(赤黄色土:サンゴダスト:堆肥=5:2:2)に定植し、無加温のビニールハウス内で養液土耕栽培を行い、特性調査を開始した。2005年に栽培特性、果実品質とも優れているとの結論を得、2007年2月に品種登録を申請した。
- 果実は、平均840gで、果皮は鮮橙色、果肉は明赤橙色である(表1、図1)。糖度は平均13.8%と「ワンダーフレア」より高く、強い芳香があり、食味良好である(表1)。
- 節間長は平均12mmと「サンライズ」に比べて短く、わい性品種である「ワンダーフレア」と同程度のわい性を示し、着花開始節は平均15節である(表1、図2)。
- 耐暑性に加えて、単為結果性を有する雌性系統であるため、豊産性で周年生産が可能である(表1)。

〔成果の活用面・留意点〕

- 果実の肥大は、無加温ビニールハウス栽培では季節に強く影響を受け、着果量によっても異なる。
- 雌性系統であるため栄養繁殖を行う必要があるが、接ぎ木および挿し木繁殖が困難であり、また、ウイルス被害の回避のため、ウイルス無毒株の組織培養による増殖が好ましい。

[具体的データ]

表1. 「石垣珊瑚」の樹体および果実特性

(国際農林水産業研究センター 沖縄支所、2001～2005年)

	石垣珊瑚	サンライズ	ワンダーフレア*
雌雄性	雌性	両性	雌性
着花開始節位	15	25	16
節間長(mm)	12	35	11
果実重(g)	840	540	620
果皮色	鮮橙	鮮橙	鮮橙黄
果肉色	明赤橙	鮮橙赤	鮮橙黄
肉質	4	5	4
糖度(Brix%)	13.8	14.2	13.1
香気	5	5	2
耐暑性	5	1	5

肉質: 1(粗)～5(密)、香気: 1(少)～5(多)、耐暑性: 1(弱)～5(強)

*石垣島における主要品種

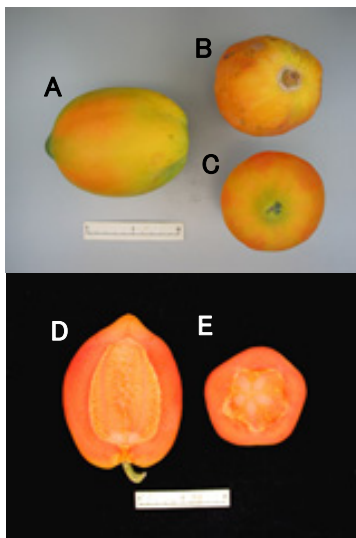


図1. 「石垣珊瑚」の果実
A: 側面、B: 果梗部、C: 果
頂部、D: 縦断面、E: 横断面



図2. 「石垣珊瑚」の樹姿(左)と開花結実状況(右)

[その他]

研究課題: パパイヤ等熱帯果樹の高品質系統の評価と選抜

中課題番号:

予算区分: 交付金

研究期間: 2005年度(1997～2005年度)

研究担当者: 深町 浩(農研機構果樹研究所)・加藤秀憲・日高哲志(鹿児島大学)・玉城真男(石垣島パパイヤ)・小川一紀(農研機構果樹研究所)・小森貞男(岩手大学)・米本仁巳

発表論文等: 品種登録申請中